

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2023年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場

深江産業株式会社

江田島市大柿町深江2153番地の1

TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328

配合計画者名 中野 貴之

工事名称											
所在地											
納入予定期											
本配合の適用期間 a)	(標準配合)										
コンクリートの打込み箇所											
配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
	普通	21	8	40	BB						
指定必須事項	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載							
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB							
指定任意事項	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³							
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	℃							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	60 %							
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位水量の目標値の上限	kg/m ³							
	呼び強度を保証する材齢	日	単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³							
	空気量	%	流動化後のスランプ増大量	cm							
使用材料 c)											
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq % d)						
混和材①	製品名	種類	密度 g/cm ³		Na ₂ O eq % e)						
混和材②											
骨材 No.	種類	産地又は品名	物理的性による区分 f)	粒の大きさ	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³ 微粒分量の範囲 i)					
細 ① 砂		広島県呉市蒲刈町産	A 化学法	5 以下	2.85	2.53 2.57					
骨 ② 碎砂(石灰石)		福岡県北九州市小倉南区産	A 化学法	2.5 以下	2.50	2.67 2.67 3.0±2.0					
材 ③											
粗 ① 砕石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	20~5	60.7	2.71 2.72 1.0±1.0					
骨 ②											
粗 ③ 砕石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	40~20	62.2	2.70 2.71 1.0±1.0					
材 ④											
混和剤①	フローリック SV10L	AE減水剤(標準形 I 種)			Na ₂ O eq % j)	0.8					
混和剤②	製品名	種類									
混和剤③											
細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	回収水(上澄水)	目標スラッジ 固形分率 m)	%						
回収骨材の使用方法 n)	細骨材	粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無							
配合表 o) kg/m ³											
セメント	混和材	水	細骨材	粗骨材	混和剤 p)						
	①		②	①	②	③	④	①	②	③	
257		151	568	251		658	439		2.06		
水セメント比 q)	58.8 %	水結合材比 q)		%	細骨材率		43.8 %				
備考	骨材の質量配合割合), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:③	70.0:30.0 60.0:40.0							

注: a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。
 b) 本配合は、レディーミクストコンクリート工場で社内検査の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準配合の配合として標準化されているものとする。また、作成時コンクリート温度が標準配合より高くなる場合は、標準配合を下回る場合、標準配合より低くなる場合、標準配合を上回る場合に修正を行ったものとする。

c) 合成して想定した强度より大幅に損傷する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が既定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。
 d) 表 B-1 の記載欄の記載事項をそのまま記入する。
 e) 配合設計に用いた材料の主な記述を記入する。
 f) JIS R 5210の全アルカリシリカ反応性による区分表と、アルカリシリカ反応性による区分表に記載している、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
 g) 破壊物の混和材試験成績表を記入する。
 h) アルカリシリカ反応性による区分、及ぼす用に用いた試験方法を記入する。
 i) 砂等に対する粗骨材の粒度を記入する。粗骨材に対しては、砂石、スラグ骨材、人工砂骨材、及び再生粗骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
 j) 砂骨材に対する粗骨材の質量を記入する。
 k) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
 l) 回収水(上澄水)を記入する。

m) 回収水(上澄水)を使用する場合、回収水(上澄水)の塩化物イオン濃度を記入する。当該イオン濃度が100mg/L以上以上の場合は、「100未満」と記入する。

n) 回収骨材の使用方法を記入する。回収骨材の使用方法は「B方法」と記入する。

o) 人工骨材の場合は、「砕石」又は「砂」の骨材を記入する。その他の骨材の場合には、表面乾燥供給水状態の質感で表示する。

p) 常温乾燥供給水、記入する必要はない。

q) フラックスを含む骨材の場合は、メタルを記入する。高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シラファーム等は断続的に骨材を結合材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。

r) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

s) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

t) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

u) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

v) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

w) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

x) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

y) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

z) 既存骨材の品質を記入する。既存骨材の品質を記入する場合は、「○」記入する。

配合計算書

配合の設計条件							
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号		
	普通	21	8	40	BB		
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		
骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方	BB			
骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³			
水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	°C			
混合材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60%			
塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m ³			
呼び強度を保証する材齢	日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³			
空気量	%		流動化後のスランプ増大量	cm			
(1)変動係数(v)	当工場の実績により v = 10.0 %						
(2)配合強度(m)	$m_1 = \frac{0.85 \cdot SL}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2$ $m_2 = \frac{SL}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$						
	よって m = 26.3 N/mm ²						
(3)水セメント比(W/C)	$m = -14.7 + 24.1 \times C/W$ $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq [60\%(\text{上限値})]$						
	$\therefore W/C = 58.8 \%$						
(4)単位水量(W)	当工場の実績により W = 151 kg/m ³						
(5)単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 151 \div 58.8 \times 100 = 257 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 257 \div 3.04 = 85 \text{ L/m}^3$						
(6)空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³						
(7)単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.650 m ³ /m ³ $G_v = 0.650 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 404 \text{ L/m}^3$ $G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 242 \text{ L/m}^3$ $G_{1v} = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 242 \times 2.72 = 658 \text{ kg/m}^3$ $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3$ $G_{2v} = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$						
(8)単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 685 = 315 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 221 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 221 \times 2.57 = 568 \text{ kg/m}^3$ $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 94 \text{ L/m}^3$ $S_{2v} = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 94 \times 2.67 = 251 \text{ kg/m}^3$						
(9)細骨材率(s/a)	s/a = S_v ÷ (G_v + S_v) × 100 = 43.8 %						
(10)単位混和剤量(Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 257 × 0.8000 % × 1.00 = 2.06 kg/m ³						

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2023年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場

深江産業株式会社

江田島市大柿町深江2153番地の1

TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328

配合計画者名 中野 貴之

工事名称											
所在地											
納入予定期											
本配合の適用期間 a)	夏期修正標準配合										
コンクリートの打込み箇所											
配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ ^a 又はスランプ ^b フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
	普通	21	8	40	BB						
指定事項(任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載						
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB						
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量 kg/m ³							
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度 °C							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限 60 %							
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限 kg/m ³							
	呼び強度を保証する材齢	日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限 kg/m ³							
空気量	%		流動化後のスランプ増大量 cm								
使用材料 c)											
セメント	生産者名 株式会社トクヤマ	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq % d)							
混和材①	製品名	密度 g/cm ³		Na ₂ O eq % e)							
混和材②	種類			%							
骨材 No.	種類	産地又は品名	物理的性による区分 f)	粒の大きさ	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³	微粒分量の範囲 % i)				
細 ① 砂		広島県呉市蒲刈町産	A 化学法	5 以下	2.85	2.53	2.57				
骨 ② 碎砂(石灰石)		福岡県北九州市小倉南区産	A 化学法	2.5 以下	2.50	2.67	2.67				
材 ③											
粗 ① 砕石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	20~5	60.7	2.71	2.72				
②											
骨 ③ 砕石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	40~20	62.2	2.70	2.71				
材 ④											
混和剤①	フローリック SV10L	種類	AE減水剤(標準形 I 種)			Na ₂ O eq % j)	0.8				
混和剤②	製品名										
混和剤③											
細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	回収水(上澄水)	目標スラッジ 固形分率 m)	%						
回収骨材の使用方法 n)	細骨材	粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無							
配合表 o) kg/m ³											
セメント	混和材	水	細骨材	粗骨材	混和剤 p)						
	①		②	①	②	③	④	①	②	③	
257		151	568	251		658		439		2.47	
水セメント比 q)	58.8 %	水結合材比 q)		%	細骨材率	43.8 %					
備考	骨材の質量配合割合 r), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比	細骨材①:② (容積混合)	70.0:30.0							
		粗骨材①:③	60.0:40.0								

- 注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の項を記入する。
 b) 標準配合には、レディーミクストコンクリート出荷注文標準の基本にしている配合で、標準状態の発送時間における標準配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、標準時間と標準状態が大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。
 c) 表 B-1 の記載欄の記入事項を、そのまま記入する。
 d) 表 A-1 ワタリメント及び骨材混合割合をもつて使用した場合に記入する。JSR 5210の全アリゴの値とし、アルカリの値としては、近畿地方開発試験委員会に示されている、各アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
 e) 骨材の物理的性質試験結果表の値を記入する。
 f) 塩化物に対する耐候性、硫酸、硫酸骨材、人工作骨材、及び再生骨材では粒径大きさの範囲を記入する。粗骨材に対する耐候性、硫酸骨材、人工作骨材、及び再生骨材では粒径大きさの範囲を記入する。
 g) 硫酸に対する耐候性の値を記入する。
 h) 硫酸骨材試験結果表の値(率)を記入する。
 i) 骨材の物理的性質試験結果表の値を記入する。
 j) 回収水のうち、上澄水を使用する場合は、「回収水(上澄水)」と記入する。
 k) 水の区分を記入する。回収水(上澄水)の場合は「A 方法」、20%以上の場合は「B 方法」と記入する。
 l) 回収骨材の使用方法を記入する。回収骨材の場合は「表面乾燥」、表面乾燥骨材の場合は「表面乾燥骨材の状態」。
 m) 空気泡調整剤は、記入する必要はない。
 n) グループ別に使用した場合は、骨材①:②:③を記入する。骨材スラグ微粉、ワライッシュ、シリカフォーム又は鉱粉を結合材として使用する場合は、本結合材だけを記入するか、又は水結合材及び水セメント比の減算を記入する。
 o) 20%以上の場合は「A 方法」、20%以下の場合は「B 方法」と記入する。
 p) 空気泡調整剤は、記入する必要はない。
 q) 混和剤の量を記入する。骨材①:②:③を記入する。骨材スラグ微粉、ワライッシュ、シリカフォーム又は鉱粉を結合材として使用する場合は、本結合材だけを記入するか、又は水結合材及び水セメント比の減算を記入する。
 r) 20%以上の場合は「A 方法」、20%以下の場合は「B 方法」と記入する。
 s) 20%以上の場合は「A 方法」、20%以下の場合は「B 方法」と記入する。
 t) 20%以上の場合は「A 方法」、20%以下の場合は「B 方法」と記入する。
 u) 付着骨材タルクカリート化に使用した場合のアルカリ量は E-6.2 によって求めた量を、安定化スラッジ水の作製に用いた場合のアルカリ量は E-6.2 によって求めた量を記入する。

配合計算書

配合の設計条件																			
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号												
	普通				8	40	BB												
指定事項 （必須）	セメントの種類			呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載											
	骨材の種類			使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法		BB											
指定事項 （任意）	骨材のアルカリ反応性による区分			使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m ³											
	水の区分			使用材料欄に記載		コンクリートの温度		℃											
	混和材料の種類及び使用量			使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限		60%											
	塩化物含有量			0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限		kg/m ³											
	呼び強度を保証する材齢			日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		kg/m ³											
(1) 変動係数(v)				当工場の実績により v = 10.0 %															
(2) 配合強度(m)				$m_1 = \frac{0.85 \cdot SL}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2$ $m_2 = \frac{SL}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$						よって m = 26.3 N/mm ²									
(3) 水セメント比(W/C)				$m = -14.7 + 24.1 \times C/W$ $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq [60\%(\text{上限値})]$ $\therefore W/C = 58.8 \%$															
(4) 単位水量(W)				当工場の実績により W = 151 kg/m ³															
(5) 単位セメント量(C)				$C = W \div (W/C) \times 100 = 151 \div 58.8 \times 100 = 257 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 257 \div 3.04 = 85 \text{ L/m}^3$															
(6) 空気量(A)				A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³															
(7) 単位粗骨材量(G)				当工場の実績により かさ容積 = 0.650 m ³ /m ³ 実積率 = 62.2 % $G_v = 0.650 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 404 \text{ L/m}^3$															
				$G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 242 \text{ L/m}^3$ $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 242 \times 2.72 = 658 \text{ kg/m}^3$ $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3$ $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$															
(8) 単位細骨材量(S)				$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 685 = 315 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 221 \text{ L/m}^3$ $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 221 \times 2.57 = 568 \text{ kg/m}^3$ $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 94 \text{ L/m}^3$ $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 94 \times 2.67 = 251 \text{ kg/m}^3$															
(9) 細骨材率(s/a)				s/a = S_v ÷ (G_v + S_v) × 100 = 43.8 %															
(10) 単位混和剤量(Ad)				$Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 257 \times 0.9600 \% \times 1.00 = 2.47 \text{ kg/m}^3$															
配合表 kg/m ³																			
セメント	混和材		水	細骨材		粗骨材		混和剤											
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③						
257			151	568	251		658		439		2.47								
水セメント比	58.8 %	細骨材率	43.8 %	骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:③		70.0:30.0				60.0:40.0								
備考																			

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2023年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場

深江産業株式会社

江田島市大柿町深江2153番地の1

TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328

配合計画者名 中野 貴之

工事名称							
所在地							
納入予定期							
本配合の適用期間 a)		冬期修正標準配合					
コンクリートの打込み箇所							
配合の設計条件							
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度	スランプ又はスランプフロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号	
	普通		21	cm	mm	B B	
指定必須事項	セメントの種類		呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類		使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB	
指定任意事項	骨材のアルカリシリカ反応性による区分		使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³	
	水の区分		使用材料欄に記載		コンクリートの温度	℃	
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %	
	塩化物含有量		0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m ³	
	呼び強度を保証する材齢		日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³	
	空気量		%		流動化後のスランプ増大量	cm	
使用材料 c)							
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq % d)		
混和材①	製品名		密度 g/cm ³		Na ₂ O eq e)		
混和材②	製品名	種類			%		
骨材 No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f)	粒の大きさ	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³	微粒分量の範囲 % i)
細①砂		広島県呉市蒲刈町産	A 化学法	5 以下	2.85	2.53	2.57
骨②碎砂(石灰石)		福岡県北九州市小倉南区産	A 化学法	2.5 以下	2.50	2.67	2.67
材③							
粗①碎石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	20~5	60.7	2.71	2.72
②							
骨③碎石		広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	40~20	62.2	2.70	2.71
材④							
混和剤①	フローリックSV10L		AE減水剤(標準形 I 種)				0.8
混和剤②	製品名	種類				Na ₂ O eq j)	
混和剤③						%	
細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	回収水(上澄水)	目標スラッジ固形分率 m)	%		
回収骨材の使用方法 n)	細骨材		粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無		
配合表 o) kg/m ³							
セメント	混和材		水	細骨材	粗骨材	混和剤 p)	
	①	②		①	②	③	④
257			151	568	251	658	439
水セメント比 q)	58.8 %	水結合材比 q)		%	細骨材率		43.8 %
備考 骨材の質量配合割合 r), 混合剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。				骨材混合比	細骨材①:② (容積混合)	70.0:30.0	
				粗骨材①:③		60.0:40.0	

(a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の期を記入する
 (b) 標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場にて社内標準の基本にしている配合で、標準状態の凍融時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、凍融時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が既定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。

(c) 標準配合の記載項目をそのまま記入する
 (d) 表 B.1 の記載欄の記載項目をそのまま記入する
 (e) 配合設計に用いた材料について記入する。JIS R 5210の全アリゴイのうち、6か月間の試験実績表に記載されているアルカリの最大値の最も大きい値を記入する
 (f) おもな骨材の品質と骨材の区分を記入する。骨材の区分として、反応性骨材、非反応性骨材、骨材の粒度を記入する。
 (g) 粗骨材に対する粗骨材の粒度を記入する。粗骨材に対する粒度を記入する。骨材に対する粒度を記入する。
 (h) 砂石に対する粗骨材の粒度を記入する。粗骨材に対する粒度を記入する。
 (i) 最新版の骨材試験成績表の値(NaClとして)を記入する

(j) 回収水のうちのスラッジ水を優先する場合は、「回収水(スラッジ水)」と記入する。回収水(スラッジ水)と記入する。
 (k) 水セメント比の使用方法を記入する。回収水(スラッジ水)と記入する。

(l) 回収骨材の使用方法を記入する。回収骨材燃焼前の上積が5%以下の場合は「A方法」、20%以上の方場合は「B方法」と記入する。

(m) 大工標準骨材の場合、绝对免燃性骨材の場合、その他の骨材の場合、表面免燃骨材の質等を表示する。

(n) 空気調湿剤の場合は、記入する必要があります。
 (o) 混合剤の使用した場合は、骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脹材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(p) 骨材に対する骨材の質等を記入する。骨材に対する骨材の質等を記入する。

(q) 計算した水セメント比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脹材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(r) 計算した水結合材比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脹材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(s) 計算した骨材混合比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(t) 計算した粗骨材の粒度を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(u) 計算した細骨材の粒度を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(v) 計算した水セメント比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(w) 計算した骨材混合比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(x) 計算した粗骨材の粒度を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(y) 計算した細骨材の粒度を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

(z) 計算した水セメント比を記入する。骨材スラグ微粉、フライアッシュ、シリカファーム又は膨脅材を結合材として使用した場合は、本配合材だけを記入するか、又は本配合材及び水セメント比の両方を記入する。

配合計算書

配合の設計条件																	
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度 普通	21	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号										
	セメントの種類	呼び方欄に記載					粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載									
指定事項(必須)	骨材の種類			使用材料欄に記載			アルカリシリカ反応 抑制対策の方法	BB									
指定事項(任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分			使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³									
	水の区分			使用材料欄に記載			コンクリートの温度	℃									
	混和材料の種類及び使用量			使用材料及び配合表欄に記載			水セメント比の目標値の上限	60%									
	塩化物含有量			0.30 kg/m ³ 以下			単位水量の目標値の上限	kg/m ³									
	呼び強度を保証する材齢			日			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³									
	空気量			%			流動化後のスランプ増大量	cm									
(1)変動係数(v)	当工場の実績により v = 10.0 %																
(2)配合強度(m)	$m_1 = \frac{0.85 \cdot SL}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2$ $m_2 = \frac{SL}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$																
	よって m = 26.3 N/mm ²																
(3)水セメント比(W/C)	$m = -14.7 + 24.1 \times C/W$ $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq [60\%(\text{上限値})]$ $\therefore W/C = 58.8 \%$																
(4)単位水量(W)	当工場の実績により W = 151 kg/m ³																
(5)単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 151 \div 58.8 \times 100 = 257 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 257 \div 3.04 = 85 \text{ L/m}^3$																
(6)空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³																
(7)単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.650 m ³ /m ³ 実積率 = 62.2 % $G_v = 0.650 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 404 \text{ L/m}^3$ $G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 242 \text{ L/m}^3$ $G_{1v} = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 242 \times 2.72 = 658 \text{ kg/m}^3$ $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3$ $G_{2v} = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$																
(8)単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 685 = 315 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 221 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 221 \times 2.57 = 568 \text{ kg/m}^3$ $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 94 \text{ L/m}^3$ $S_{2v} = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 94 \times 2.67 = 251 \text{ kg/m}^3$																
(9)細骨材率(s/a)	s/a = S_v ÷ (G_v + S_v) × 100 = 43.8 %																
(10)単位混和剤量(Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 257 × 0.6400 % × 1.00 = 1.64 kg/m ³																
配合表 kg/m ³																	
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材		混和剤								
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③				
257			151	568	251		658		439		1.64						
水セメント比	58.8 %	細骨材率	43.8 %	骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:③		70.0:30.0				60.0:40.0						
備考																	